



アジア宗教者平和会議、日本国際ボランティアセンター共催
アフガニスタン・ピースアクション講演会

<現地 NGO 代表が命がけの平和活動を語る>

11月20日、一般社団法人 アジア宗教者平和会議東京（以下、ACRP）と、特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター（以下、JVC）が共催し、「アフガニスタン・ピースアクション講演会～対話の力で平和を目指す～」を行いました。この日は、アフガニスタン現地 NGO 代表 “Your Voice Organization” のサビルラ・メムラワル氏をお呼びし、現地での平和活動の取り組みやライフストーリーについて語って頂きました。サビルラ代表の話聞くため、宗教者や NGO 関係者、市民約 57 名の方にご参加頂きました。

今回、この講演会を行うことになったのは、4月に JVC アフガニスタン事業担当の加藤真希さんが ACRP オフィスを訪れたことが始まりでした。

アフガニスタンで今何が起きているのか、紛争地域で必死に平和活動を行うサビルラ代表の存在を熱く語ってくれました。アフガニスタンを自分の故郷のように愛し、またそこで生活する全ての人々を愛する加藤さんのまっすぐな思いに深く感銘を受けた私たちは、この話を沢山の人に広めたいと思うようになりました。また、サビルラ代表から直接話を聞き、多くの日本人にアフガニスタンの「今」を知ってもらいたいという思いから、講演会を行うことが決定しました。

第一部でサビルラ代表は、日々戦闘が続く中で、子供たちが「兵士になりたい」「父親の復讐をする」などと口にするのを聞き、「憎しみのサイクルを断ち切らないといけない」と決意した心境を話してくれました。アフガニスタンのクズクナール地域は、国内でも最も安定した地域であり、平和のロールモデルとして、他方から沢山の人がピースアクションの成功例を聞き訪れたそうです。ピースアクションプロジェクトでは、小冊子を作って学校や病院などで配り、暴力によらない問題解決の大切さなどを伝えるなど、幅広く平和活動を推進しているそうです。また、周辺地域の住民をクズクナールに招いてワークショップを開き、平和教育を通じて各地域の治安の安定に努めていると述べられました。また、アフガニスタンでは家庭での教育が重要であることにも触れ、母親の役目がキーであることも語っていました。





続く第二部は雰囲気ガラッと変え、会場をラウンジに移動しました。ソファや椅子に自由に座りながら聞けるアットホームな空間の中で私たちはサビルラ代表の半生に触れました。幼少期に内戦の影響で難民としてパキスタンに移住した体験や、一度は兵士を志し、銃を持つ生活をしてきたものの、友人の誘いで JVC の活動に参加するようになった経緯などを振り返りました。初めはドライバーとして手伝いをするだけでしたが、JVC スタッフとの関わり合いの中で生まれてきた平和への渴望、当時 JVC 代表でありアフガニスタン事業の責任者であった谷山氏から貰った「あなたにも、アフガニスタンの平和のために果たせる役割があるんだよ。」という言葉、谷山氏をはじめ JVC スタッフがアフガニスタン市民を守るために米軍人らと「対話」で問題解決に臨む姿を目の当たりにするなど、次第にサビルラ氏の心の中にある「武力行使による平和」が薄らいでいったそうです。



それらの体験を基に、子供たちの心を育むには家庭教育が重要であることに気づきました。

平和の大切さや他者を思いやる心は、「家庭で子供の時に学ばなければいけない」と指摘し、幼い頃から親子で平和について考えることが、将来、紛争の解決や地域の情勢安定にもつながると語ってくれました。



最後のメッセージとして、「同じ課題に対して一人ひとりが出来る役割が必ずあると信じています。いつも日本から想いを寄せ支えてくれているということにとっても救われています。」と仰っていました。

今回、私たちは非常に貴重な時間を過ごすことができました。アフガニスタンの現状をインターネットやテレビの報道で見ることにはあっても、現地の人々の「生の声」を聴くことはとても少ないです。メディアでは流れない情報がある中、サビルラ代表から自身の半生と平和活動報告を通して、真のアフガニスタンを知ることが出来ました。平和を願う気持ちや、平和は家庭から築いていくことが大切だということも、私たち日本人が思うことと同じです。同じ国際社会に住む者同士、沢山の共通点を見出すことができ、ダメなものに「NO!」と言う強さを教わりました。「対話」から生まれる平和の可能性は決してゼロではなく、非常に有効的な手段であることも、今回の講演会を通して証明されました。サビルラ代表は講演会の中で「平和は誰もが望んでいることです、平和は継続し、発展できるものです」と語られていました。今後も平和を願う者同士、手を取り合いながら平和実現に向けて進んでいきたいと思えます。



校成新聞 DIGITAL でも講演会の様子を掲載しています。
ぜひご覧ください！

<https://shimbun.kosei-shuppan.co.jp/news/36412/>

文責：ACRP 東京事務局 出射